

肝癌の治療は 実績ある病院で受けることが大切です

消化器内科部長 ごとう とおる
(兼)内科系統括部長 後藤 亨

肝癌治療の特色

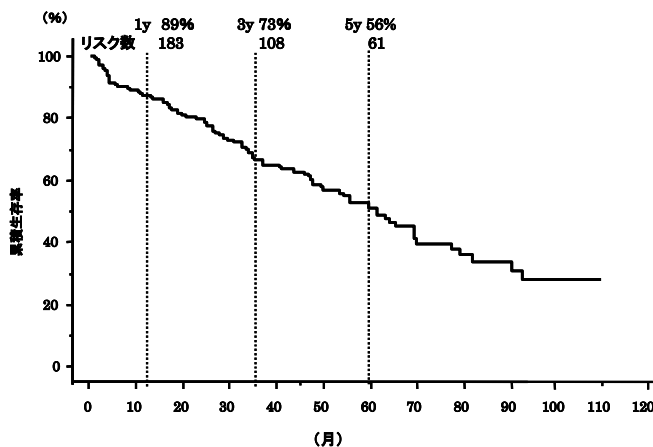
肝癌は原発性肝癌と転移性肝癌があり、原発性肝癌のほとんどはB型肝炎やC型肝炎ウイルスを原因とする慢性肝疾患から発症する肝細胞癌です。肝細胞癌の治療はラジオ波治療など近年著しく進歩していますが、それでも予後の不良な癌で、全体の5年生存率は50%前後であり、初期の段階といわれる2cm以内単発のものでも80%ぐらいです(胃癌や大腸癌は初期の段階ならほぼ完治します)。これは背景に慢性肝疾患が存在することと、再発が高頻度(5年で70%)であることによります。そのため治療は専門的な知識と経験が必要であり施設間の格差があるのが現状です。そのため、**肝癌に罹患してしまった患者さんは、治療を受ける病院を十分に検討し選択することが重要**です。選択の目安としては、現在はホームページ等で病院の治療実績を確認するという手段があり、熱心に治療している施設は専門医が詳しく解説しています。

当科では過去10年以上肝癌の治療に積極的に取り組んでおり(原発性も転移性も)、その実績をホームページで公開しております。もし当院通院の患者さんや、そのお知り合いの方で肝癌の患者さんがおりましたら、ホームページや院内のパネルで当科の実績を参照していただき、当科で治療を受けていただくことをお勧めします。

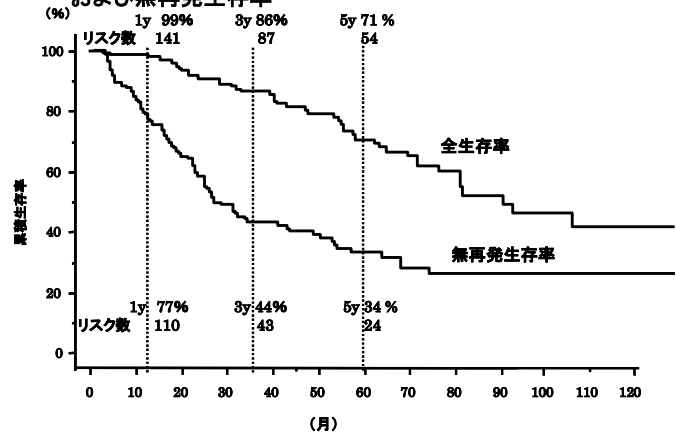
当科の肝細胞癌治療成績

過去10年間の当科の治療成績をお示しします。これは肝癌研究会の全国調査による平均(5年生存率53%)より優れています。

当院初診の肝細胞癌229例の生存率



当院初診の3cm3個以内の肝細胞癌159例の全生存率
および無再発生存率



当科の肝臓に対するラジオ波治療の実績

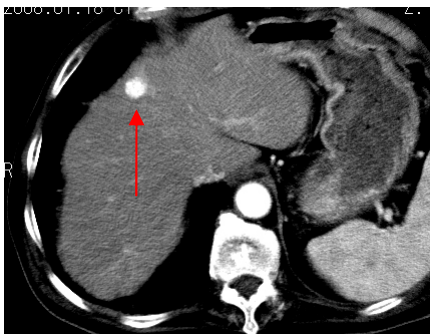
平成12年12月に導入以来、平成22年5月までの9年半あまりで317例（男：女 154：55、平均年齢69.0歳、最高齢92歳）、のべにすると670例の方に存在した1036病変に対して1694回のラジオ波治療を施行しました。内訳は肝細胞癌242例（のべ522例、753病変、1273回）で、転移性肝臓癌75例（のべ148例、283病変、421回）施行しています。

また肝臓癌の診療実績は消化器科の医師が参加する学会で多数報告しております。平成22年も春の日本消化器病学会（新潟）で3題、日本肝臓学会（山形）で1題、一般演題で報告し、夏の肝臓癌研究会（大阪）では当科のラジオ波の技術をビデオセッションで報告しました。秋の日本消化器関連学会週間（JDDW横浜）ではパネルディスカッションに選ばれ、他に6題一般演題で発表の予定です。また欧州で行われる国際学会（スペイン）でも発表の予定です。

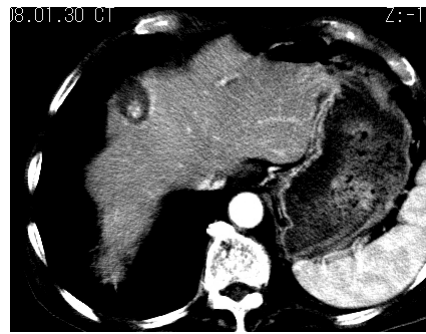
*学会実績は全て当科での診療実績をもとに行っており、出身大学や、出身病院での実績は含みません

症例

90歳男性 2cmの肝細胞癌に対してラジオ波治療を行い無事終了、現在も再発を認めずご健在です。



治療前2cmの肝細胞癌（矢印）
高齢の方でも安全に治療可能でした。



ラジオ波治療後 癌を囲んで黒い壊死範囲が広がっている

以上、実績を簡単に紹介いたしました。
より詳しくはホームページを参照下さい。

当科は肝臓癌の診療は他の専門施設と同等以上を自負しております。
もし肝臓癌と言われた方がおられましたら、消化器内科後藤外来の受診をお勧めします。

外来日程表

平成22年8月1日現在

	月	火	水	木	金
午前	井田 西郡 関	後藤 太原 濱中	諸橋 西郡 森	後藤 太原 高橋	諸橋 濱中 井田
午後				肝臓 癌 外来	

※診察日等が変更となる場合がありますので事前にお問い合わせ下さい。



大森赤十字病院

〒143-8527 東京都大田区中央 4-30-11 TEL 03-3775-3111(代)